

学びのストーリー（単元の流れ）

1次	情報通信技術 (ICT) ってなに？① ◎資料を基に、身近なものに関連づけて、関心を引き出す ICT 情報を利用 ・スマホとかスイカも ICT なんだね。いつも使っているよ。 ・スマホとかタブレットで色んなもの見てるよ。便利じゃん。 ・え、自分たちの情報って使われているの!こわいな。 ・小田原の観光課の人も情報を集めてるんだね、観光客のスマホから。 ・「たくさんの情報を集めています」っていうけど、どんな情報を集めてるの？
2次	観光課は観光客のスマホからどんな情報を集めてるの？② ◎産業から小田原（産業→観光業→小田原）、観光業に着目して学習問題をつくる □行ったところとか集めてるのかな。ICT 大量の情報のメリット 情報の集め方 □どのサイトで調べたのかな。 ・ものすごい量の情報、こんなに集めてどうするの？ ・お客さんの困っていることも集めてるね。 ・観光客のことがよく分かる、年齢のグラフって要るの？ ・観光課の人って、どうしてこんなに情報を集めてるの？
	観光課はどうしてこんなに情報を集めてるの？③ ◎情報を集める理由を知り、集客、観光客の利便性に役立っていることに気づく □観光客をたくさんよびたいんじゃないかな ICT 根拠は大量情報の分析 □小田原のことをもっと知ってほしいと思う観光課思い利便性、満足、集客、移住 ・いろんな人に魅力を知ってもらいたいからなんだね。魅力を発信 ・情報が根拠になるんだね。観光客の来やすいときに予想できる。 ・困っていることを調べられるから。情報発信に大事なことじゃん。 ・戦略を練りたいから。観光客にもっと来てもらいたいんだね。 ・T さんが「ICT の情報を生かして工夫してる」っていうけど、どんな工夫？
	観光課はどんな工夫してるの？④ ◎集めた情報を基にした取り組みを捉え、観光課の工夫と努力に目を向ける □SNS を使ったんじゃない。みんな見てそう。ICT 情報発信、便利、街中の情報 □CM とかポスターを作って、いろんな人に伝えとかかな。市だからできる点 ・SNS、PR 動画やってる、イベントもコラボも企画してる、飽きさせないね。 ・シェアサイクルとか回遊バスを出しているんだね。必要だと思う。 ・混み具合を知らせるんだね。電子掲示板も便利じゃん。情報発信できるじゃん。 ・アプリですぐ見れるようにしてるよ。電車時刻、シェアサイクル、街中の混み具合とか。3D AR、イベントー覧、モデルコース提案とか、便利なアプリじゃん。 ・観光課の T さんが「個人でも発信してる人がいる」っていうけど、どんな人？ ・小田原っちを運営する K さんは無償で、しかも一人で?なんでやってるの？
	無償なのに、K さんはなんで一人でやってるの？⑤ ◎別の視点に立ち、活用者の工夫と努力に目を向ける 情報の集め方 □好きでやってるんじゃないかな。少量の情報、根拠は直接聞いた話、インスタ □趣味でやってるのかな 個人だからできる点:発信内容 本人・感想・店・人 □発信するのが得意なんじゃない？ 個人思い魅力、満足、集客、プライスレス ・地元を好きになるきっかけを作りたいって始めたんだね。 ・小田原を知らない人にも伝わるように、情報発信しているんだね。 ・一人で取材・編集は大変、正確な情報を集めるようにきをつけているんだね。 ・情報発信を続けることで、次の世代にも受け継がれていくと考えてるんだね。 ・K さんは、「私一人で発信しているよさもあり、観光課にも発信しているよさがあります」って言ってたね。それぞれどんなよさがあるか話したい!
	観光課と個人が出す情報発信のよさって⑥（本時） ◎行政と個人のよさを話し合い、異なる情報源・収集・分析・発信だが、発信に対する思いと受け手のことを考えて ICT を活用しているという共通点に目を向ける 観光課の T さん達 ・T さん達チームじゃん、便利な情報を伝えてる。 ・伝え方が色々あるところ。SNS、PR 動画、デジタルサーネイジ、アプリとか。 ・街中の混み具合をリアルタイムで発信できる。小田原だから。 ・アニメとか他の会社と、協力して企画できる。小田原だからさ。 ・大量の情報を使ってるじゃん、困っていることを解決できるよ。 ・本当の情報だから根拠がしっかりしてるどころ。 ・小田原を色々な人知ってほしいって気持ちで取り組んでいるところ。 小田原っちを運営する K さん ・インスタグラムを使ってるところ。いろんな人が見てるじゃん。 ・毎日動画をあげているから、気になって見たくなる。 ・一つ一つの動画が見やすいし、わかりやすい。 ・30 秒の動画だからわかりやすい。飽きない。 ・K さんはちゃんと取材してるじゃん。 ・本人が顔を出して紹介してるところ。安心できる気がする。 ・そのお店の作っている人がわかるところ。行ってみたいなる。 ・小田原の素敵などころを伝えたいっていう気持ちで取り組んでいるところ。 共通点 ・やっていることは同じじゃん。・ICT をうまく使ってるのも同じでしょ。使う人を大事にしているじゃん。 ・どちらも小田原が好きでさ、小田原のよさを知ってもらいたい。 ・先生が「観光をするときどっちを使うのかな」って言うんだけど、どちらも使うよ。だって、観光の情報も、個人の情報も便利じゃん。
	自分が観光するとき、どっちを使うのかな？⑦ ◎観光→産業へ（小田原→観光業→産業） ・先生が！時間目を振り返ったけど、ICT は観光だけじゃないんだよね。 ・便利な ICT が増えていくじゃん。これから ICT とどう関わるかというののかな。 ・ICTのおかげで便利になった。これからも必要なものだと思う。だから～。 ・知らないうちに個人情報を出しているかもしれないから気をつける。例えば～。 ・ICT はこれからも発展する。関わりも増える。上手に使うことが大事だから～。

授業デザイン

響き合う

考えを発言できるようになあたたかな雰囲気作りをする。考えをもつ、考えを伝える、反応することを価値づけて、発言したり考えをつなげたりする意欲につなげる。

手立てや概念

「情報通信技術 (ICT)」は、まず言葉の定義をおさえる。次に身近なものに関連づけて、実生活に結びつけた言葉であると確認する。

自己調整

その日の学びについて感想を書き、振り返りをしながら、学習問題(次の問い)を自分たちでつくりことができるようにする。

手立てや概念

観光課の取材内容と、実際のデータを基に、自然と問いが焦点ができるようにする。

ICT の活用面や、立場を意識できるように、板書をする際は、色分けをして視覚的な支援ができるようにする。

資料を基に伝え合う場面では、情報の共有で終わらないよう、自分の考えや気持ちを述べ、自信をもてたり、考えが広がるよう伝えていく。

響き合う

伝えたこと、話型、反応の価値づけ
友達の考えから繋げて発言する意識の価値づけ

手立てや概念

それぞれの発信する情報や ICT についてまとめられるよう、観光課の HP、PR 動画をみたり、小田原っちの Instagram の情報を適切な環境を整えてみられようにし、まとめるようにする。

手立てや概念

小田原っち
無償で、市内のお店、イベント、食べ物などを紹介
アポ、打ち合わせ、撮影、購入、編集、校閲、発信全て一人でやっている

響き合う

資料を基に行政と個人のよさを話し合い、よさ、共通点を話し合う。

手立てや概念

小田原っちの取材記事を読むとともに、一言を取り上げ、自然と問いが焦点化されるようにする。

高め合う

答えのない問いに対して、アイデアを出し合い、自分の考えに自信をもったり、考えを広げたりして。多角的多面的に考えをもてるようにする

評価規準／評価方法

【思考・判断・表現】
・身近な ICT 活用について捉えたことを基に、ICT 活用が進む観光業のに関する学習問題をつくり、表現している。
【知識・技能】
・携帯から集めている情報の種類や量、情報が集まる仕組みやその流れについて、資料から大まかに読み取り、この仕組みによって便利になっている点を捉えている。
【知識・技能】
・大量の情報を分析して活用する前と後の変化について、複数の資料から読み取り、ICT や大量の情報を活用することの利点と配慮すべき点を捉えている。
【知識・技能】
・ICT を活用した様々な観光サービスがあることを複数の資料から読み取り、生活の中で欠かせなくなっていることを捉えている。
【学びに向かう力・人間性】
・調べたことを生かして、ICT 活用の進展が観光業や情報活用のあり方について自分の考えをまとめようとしている。
【学びに向かう力・人間性】
・調べたことを生かして、ICT 活用の進展が観光業やこれからの社会に与える影響や、今後の情報活用のあり方について自分の考えをまとめようとしている。

願う子どもの姿

- ・考えたい「問い」を自分たちでつくり、一人ひとりが考えをもち、話し合いを通して考えを広げる姿。
- ・観光課の K さん達と小田原っちを運営する T さんの ICT 活用に対する思いに触れ、生活に欠かせない ICT とどう関わっていくといいのか自分事として考えられる姿。